

## 船舶事故調査報告書

平成22年5月13日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年5月26日 01時30分ごろ
発生場所	静岡県下田港南南西方沖 石廊崎灯台から真方位084° 4.3海里（M）付近（概位 北緯34° 36.6′ 東経138° 55.9′）
事故調査の経過	平成21年5月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	漁船 第八十三 <sup>いなり</sup> 稲荷丸、499トン 132779、廣屋水産株式会社 56.99m（Lr）×9.50m×4.45m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成8年10月16日 船長 男性 57歳 三級海技士（航海） 免許年月日 昭和56年4月9日 免状交付年月日 平成17年7月6日 免状有効期間満了日 平成22年7月5日
死傷者等	なし
損傷	船底破口及びき裂
事故の経過	本船は、船長ほか31人が乗り組み、船首約1.2m、船尾約5.4mの喫水で、平成21年5月26日01時20分ごろ、大型船（以下「A船」という。）に追隨して神子元島と横根の間を通過しようと思い、針路を065°（真方位、以下同じ。）に定めて自動操舵により航行した。 船長は、前方を航行するA船の灯火を見ていたところ、他船の灯火との識別が難しくなり、A船の灯火と思われる明かりを目標にして航行中、01時30分ごろ石廊崎灯台から084° 4.3M付近で乗り揚げた。 船長は衝撃を感じ、前方に岩が見えたので乗り揚げたことに気付き、自室から出てきた漁ろう長が海上保安庁に通報した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西北西、風力 2、視程 2～3M以上 海象：海面 穏やか、潮汐 上げ潮の初期
その他の事項	AIS記録による運航の経過 (1) 01時19分23秒、本船は、北緯34° 35.9237′、東経138° 54.2391′ 付近を、船首方位065°、速力8.7ノット（kn）で航行した。 (2) 01時29分53秒、北緯34° 36.5803′、東経138° 55.8806′ 付近で、本船の速力は1.7knとなった。

	船長には、39年程前に、神子元島と横根間を一度だけ通過した経験があった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、01時20分ごろ船首方位約065°として自動操舵により速力約8.7knで航行し、01時30分ごろ浅所（北緯34°36.6′、東経138°55.9′付近）に乗り揚げたものと考えられる。 本船は、石廊崎東方沖を東北東進中、船長が、A船に追従すれば、神子元島と横根の間を通過できると判断し、レーダーを使用して船位を確認しなかったものと考えられる。 本船がA船の灯火を目標にして航行中、船長は、前方に点在する他船の灯火との識別が困難になり、A船の灯火を誤認していたことに気付かずに航行を続けた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が石廊崎東方沖を東北東進中、船位を確認せずに航行を続けたため、横根南西方沖の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	